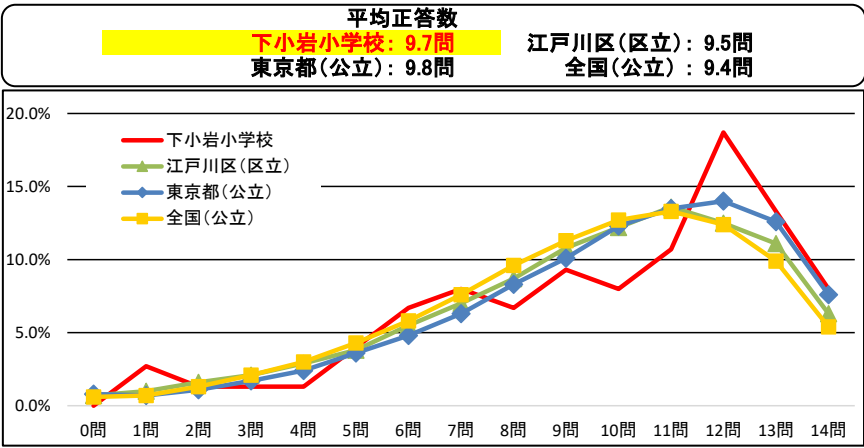


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】下小岩小学校

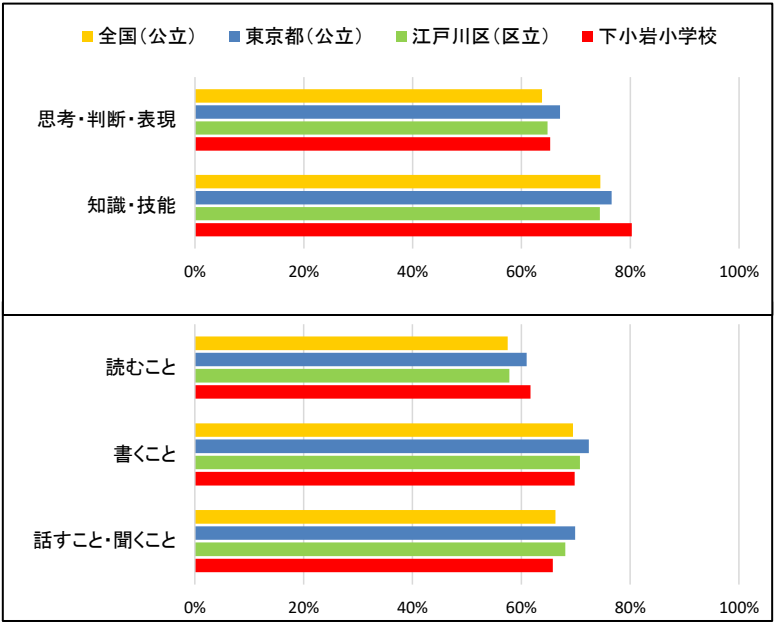
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

下小岩小学校	70%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	0.0

「領域別」の結果

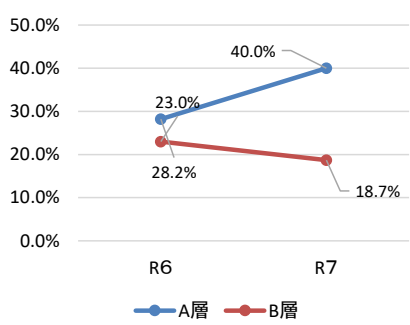


四分位における割合（都全体の四分位による）

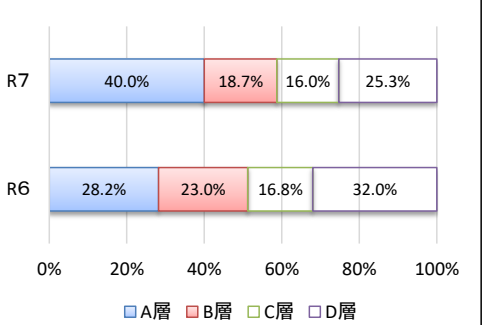
国 語	上 位				下 位			
	A層	B層	C層	D層	A層	B層	C層	D層
下小岩小学校	40.0%	18.7%	16.0%	25.3%	12~14問	10~11問	8~9問	0~7問
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%				
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%				
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%				

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

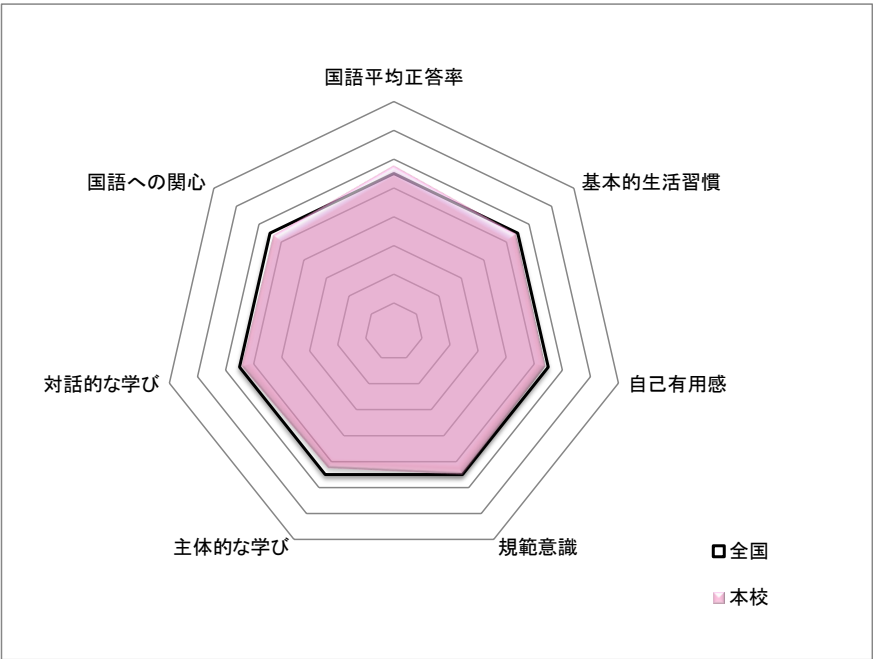
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・平均正答率は、江戸川区、全国を上回っている。東京都平均とは同等である。
- ・領域別では、国語への関心、主体的な学びの項目で、わずかに全国平均を下回るが、他の項目は、すべて平均を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・スタディーウィークを設定し、学習内容の基礎・基本の定着を図る。
- ・毎日の家庭学習で、音読や漢字の練習を繰り返し取り組むことにより、言語能力の向上を図っている。
- ・読書週間を設定し、文字を読む習慣を身に付け、読解力の向上を図る。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・AB層の割合は、全体の約58.7%である。
- ・領域別の傾向を見ると、思考・判断・表現で都の平均を下回るものの知識・技能面では都を大きく上回る。
- ・ミライシードのドリルパークに取り組んでいる。自分の苦手な問題を把握したり、発展問題を解いたりすることに役立っている。このようにICTを活用し、さらなる学力向上を図る。
- ・読解力の向上を目指し、YOMUよむワークシートを活用している。AB層は、記事を読んだ後に、自分が疑問に思ったことや、もっと調べてみたいことを、実際にタブレットや本を使って調べ、ノートにまとめている。読解力の向上とともに、表現力や情報収集能力の向上を図っている。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- 校内研究において国語科 読み解く力の育成を重点目標とし説明的文章の授業改善に取り組んでいる。外部講師からの助言をいただき、国語科の指導力向上に努めている。具体的には、以下の授業を目指している。
- ・主体的に学習に取り組む態度の育成(見通し・粘り強い 取組・学びの振り返り)
- ・「分かる」喜び、「できる」楽しさを感じられる魅力ある授業
- ・『江戸川区国語授業スタンダード』の活用(説明的文章の授業展開)

・基礎学力の保障

- 学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得のため、本校では読解力の向上を目指している。そのための手段として、YOMUよむワークシートを活用する。
- (1) 文の基本を捉える「いつ・どこで・だれが・何をした」
- (2) 新聞記事に対して自分の考えをもつ「知ったこと・聞いたこと・思ったこと・感じたこと」
- (3) 語彙を増やす

・学習習慣の確立

- ・学習規律の徹底を図るため全校共通「学習ルール」の設定。
- ・「江戸川つ子 study week」各学期1回7日間で、ドリル学習を通じた習熟を図る。
- ・朝の学習タイムを設定し、既習事項の定着を図る
- ・読書科の時間を活用し、読書習慣を身につけさせる。

・AB層の育成

- ・対話を通して、考えの相違点・共通点を確認し、考えを広げる活動を取り入れていく。
- ・児童に対話させる際に、何を対話させるか明確にする。
- ・適切な支援、教具や思考ツール、ワークシートの工夫により、応用的な課題に対しても意欲的に取り組めるようにする。
- ・YOMUよむワークシートを活用する。